

■ぬまづ近代史点描 72

海軍少将安原金次とその資料

■シリーズ沼津兵学校とその人材 91

上田藩への御貸人

二〇一二年一月

史料館通信 沼津市明治

通巻108号



安原金次が隠しカメラで撮影した清国の風景写真  
(安原章夫氏寄贈)

# 海軍少将安原金次とその資料

安原金次（一八五二—一九二六）は、日清戦争を控えた時期に中国大陸に渡り、軍事情報の収集活動を行い、後に海軍軍令部で初代の牒報課長をつとめ、最後は海軍少将になった人物である。戊辰戦争時には彰義隊に参加したほか、明治初年には沼津に移住した経験を持つ旧幕臣であった。沼津兵学校に入学することはなかったものの、生育方頭取支配（静岡藩陸軍局の所属員）に編入され、兵学校附属小学校教授の小野田東市や関某（大之か巴吉か）の家塾で学んだ。

安原は波乱に富んだ自ら歩みを自伝（草稿）にまとめ、子孫に残した。旧幕臣の親睦団体である葵会の評議員（海軍部）をつとめたほか、松平太郎著『江戸時代制度の研究』（一九一九年刊）に小人の家柄だった自家の古文書を提供するなど、自分の出自を意識し、歴史への関心を抱き続けたようである。自分史への取り組みは、彼にとつては自然なことだった。筆者はその自伝類を翻刻し、一冊の史料集として刊行させてもらうとともに（樋口雄彦編・解説『海軍諜報員になった旧幕臣—海軍少将安原金次自伝—』、二〇二一年、芙蓉書房出版）、資料の現物は



安原金次  
（磯山綾子氏所蔵）

安原家から沼津市明治史料館に寄贈していただくことができた。

ここでは、同書に収録できなかった資料の中から興味深いものを幾つか紹介してみたい。

写真を掲げたのは、少年時代の金次と四人の弟たちが母とともに食事をしている場面を描いた絵画である。給仕をする女中らしき女はいるが、父親の姿はない。長男である金次は元服前の髪型である。父親が病没し母子家庭になったのは元治元年（一八六四）、金次の元服は慶応二年（一八六六）なので、その間のようすを描いたものなのだろう。金次が幕臣安原家の養子に入ったのは慶応四年のことであり、当然ながら実家である中島家にいた時期である。

扁額に仕立てられており、画風は浮世絵のようであるが、明治以降に昔を懐かしむべく絵師に描かせたものである。金次自身も絵心があり、「金次自画略伝」という絵入り自伝を残している。比較すると浮世絵風の人物の描き方が似ているが、扁額の左下に記された署名は「金次」とは読めない。

表紙に掲げたのは、清国でスパイ活動中の安原が、衣服の中で隠し使うカメラで撮影した写真である。裏面には、「此写真ハ明治十九年予ガ清国福州ニ到リシ時携帯シタル秘密写真小器械ニシテ洋服ノ内懐ロニ入レ眼鏡ハ上着ノボタンノ穴ヨリ出シテ探影ナスヲ以テ傍人ト雖モ之ヲ知ルモノナシ故ニ予ハ砲台又ハ兵営ニ至リ屢々実況ヲ写シタリ」と墨書されている。決して表には出さなかったであろうこのような機密資料の実物が現存するのは実に珍しいといえよう。

（樋口雄彦）



安原金次一家の食事風景  
（安原章夫氏寄贈）

# 上田藩への御貸人

沼津兵学校の教授・生徒を筆頭に、静岡藩では多くの藩士を「御貸人」として

他藩へ派遣した事実が知られる。彼らが果たした役割について明らかにするためには、派遣先の藩側に残された史料を掘る必要がある。ここに紹介するのは、そのような史料の一つである。明治三年（一八七〇）、信濃国の上田藩（藩主松平忠札・五万石）にフランス式練兵教師として派遣された三名の静岡藩士に関わるものである。

明治新政府が明治三年一〇月に発した、陸軍はフランス式、海軍はイギリス式に統一せよという布達により、諸藩では一斉に軍制改革に取り組むこととなったが、上田藩でも仏式陸軍教師を招聘する必要が生じ、それを静岡藩に求めたわけである。藩内に発せられたこの通達からは、静岡藩からの三名の教師が兵隊屯所に寄宿しながら銃隊の指導にあたること、子どもたちが無礼を働かないよう親からも注意するよう促したことがわかる。

今般兵制之儀

朝命ニ依リ仏式ニ被成御変更候ニ付従  
静岡藩右三人為教師御頼相成当分之内  
兵隊屯所江致寄宿明十三日より銃隊稽

佐野 節  
植林善次郎  
野田鈞次郎

古相始り候事

一 調練場之内往来不相成旨兼テ布告致シ置候処近來猥ニ相成間々通行致候族も有之趣相聞不相濟事ニ候向後心得違無之様可致事

一 銃隊稽古中調練場西南道筋通行之節右教師御他藩之仁ニモ有之候得者別テ心付幼年之子供ニ至ル迄無礼無之様親々ヨリ可申聞置候事

一 元馬場当分之内往来差留候間其旨相心得可申事  
右之趣可相心得候尤九等官之者江ハ頭々ヨリ可申聞候也

十一月十二日

藩庁



（上田市立博物館所蔵・松平家文書59「明治三庚午歳ヨリ至同四辛未 布告留 藩庁」所収）

上田藩がこの三名を招聘したことは、四年（一八七一）三月明治政府に対しても届がらされてい（「公文録」）。ただし、そこに記された氏名は「植村」「鉞次郎」と誤記されている。また、上田藩側の文書に記された野田鈞次郎は、静岡藩の役職者名簿「静岡御役人附」（明治三年刊）では沼津兵学校附属喇叭手出役として記載された野田鈞三郎と同一人物であると思われるが、「次」「三」のどちらが正しいのかはわからない。植林については、「植林」「植松」が混在しているものの、慶応四年（一八六八）七月時点の移住予定者名簿「駿河表召連候家来姓名」（国立公文書館所蔵）には書院組頭取として、同年末頃には旧幕府陸軍兵士から選抜された沼津兵学校の暫定生徒として（国立国会図書館憲政資料室所蔵・西周文書）、そ

れぞれ掲載されている。佐野節は、兵学校附属喇叭手出役として「静岡御役人附」に掲載される佐野小源吾、あるいは喇叭方教授だったとされる佐野照房（左金吾）と同一人物である可能性が考えられるが、確証はない。

いづれにせよ、三名は静岡藩内の他所ではなく沼津から上田へ赴いたものと推測される。なぜなら、明治三年一二月二三日付で上田藩執政（もと家老・大参事）師岡主幹から沼津兵学校三等教授方平岡芋作にあてた、「佐野御氏」ら御貸人派遣に対する礼状が現存するからである（沼津市明治史料館所蔵・箕輪家文書、写真は沼津市明治史料館刊「図説沼津兵学校」四三頁、翻刻は拙著「沼津兵学校の研究」一九七頁にあり）。上田藩では、静岡藩の協力に対し、知藩事の感謝の言葉とともに、「国産素品」をお礼に贈ったことが記されている。

静岡藩からの御貸人に関する上田藩の通達  
（上田市立博物館所蔵・松平家文書  
「明治三庚午歳ヨリ至同四辛未 布告留 藩庁」所収）

明治二年（一八六九）二月に陸軍をイギリス式にしたばかりの上田藩であったが、こうして仏式に再変更し、上等士官一三名、下等士官二〇名、士族兵員・卒兵員各一二四名、士族喇叭方一〇名、卒喇叭方一名、計三〇二名からなる二中隊を編成した（「長野県史 近代史料編 第一巻 維新」、五九七頁）。三名の御貸人は、翌四年（一八七一）六月一三日、用済みにつき帰藩したという（「上田市史」上巻、一九四〇年、五七六頁）。

（樋口雄彦）

# 今年度も多くの小学生が史料館を見学に来ました！

いろいろな道具を見せてもらいました。わたしははかりにびっくりしました。昔の人はあたまがいいんだなと思いました。

原小3年 さきさん

昔の道具の中でちょうちんがすごいなおもいました。ふさようじ、学校で作ってみました。ちくちくしていました。

静浦小4年 石川歩夢さん

きちょうな昔の物を見せてもらいありがとうございました。昔のれいぞうこはあまりひえそくもありませんね。

原小3年 山口れいさん

3年生は「昔の暮らし」について、4年生は「江原素六」と「昔の暮らし」についてを中心に職員の説明を聞き、展示を見て学習しました。

館に送ってくれた感想を紹介します。

- 6月21日火 金岡小学校4年生
- 9月15日(木) 金岡小学校3年生
- 10月6日(木) 第二小学校4年生
- 10月19日(水) 第一小学校4年生
- 10月28日(金) 浮島小学校3年生
- 11月8日(水) 開北小学校4年生
- 11月9日(水) 門池小学校4年生
- 11月15日(水) 第五小学校4年生
- 11月15日(水) 原小学校3年生
- 11月18日(金) 門池小学校4年生
- 11月22日(水) 静浦小学校4年生

私は昔の道具、江原素六さんのことがたくさん知れてよかったです。昔の人はとても苦労していたことを知り、電気、水道のありがたみがとてもよくわかりました。

第二小4年 一木はるかさん

わたしは史料館に行くのがすごく楽しみで夜もあまりねていませんでした。わたしは本当に行けてすごくうれしかったです。わたしはいっぱいメモをして、お母さんに見せようと思ってしっかり聞きました。

静浦小4年 伊藤瑞穂さん

## 中学生の職場体験

中学生の職場体験を受け入れ、明治・大正期の書籍のカード作りをしてもらいました。昔の漢字にずいぶん苦労したようですが、熱心に取り組みました。

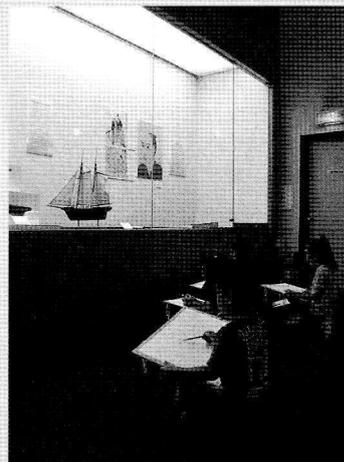
10月 愛鷹中3人、第二中2人

11月 第五中1人、原中2人、金岡中2人

職場体験で特に印象に残ったのは明治や昭和の資料がたくさんありびっくりしました。桃里の検地帳を見せてもらった時、江戸時代の農民はあんなに管理されていて逃げられないようになってびっくりしました。

原中2年 須田陽介さん

## 江川坦庵絵画教室



展示室でスケッチ。真剣です。

「輝く静岡の先人展 江川坦庵とゆかりの人々」(会期10月1日～30日・県文化財団共催)を開催しました。多数のご来館ありがとうございました。

関連事業として講演会、ギャラリートークに加えて、館独自企画として「江川坦庵絵画教室」を3回開きました。延べ40人の小学生が参加し、クレヨンや色鉛筆、絵の具などを使って腕を振るいました。作品は県主催の「坦庵絵画コンクール」に出品しました。

作品 良知愛悠美さん(門池小六年)の



## 沼津市明治史料館通信

第108号

平成24年1月25日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL055-923-3335

FAX055-925-3018

印刷

みどり美術印刷株式会社